

第2回 富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

日 時：平成30年3月27日（火） 午後2時～4時

場 所：富田林市役所金剛連絡所2階 大ホール

出席者：○協議会委員 13名

友田委員、中井委員、溝口委員、山田委員、吉村委員、増田委員、岡本委員、池田委員、市川委員、和田委員、井筒委員、三崎委員、皆見委員

○事務局 4名

まちづくり政策部まちづくり推進課

仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、坂口地域整備係長、竹内

○コンサルタント 1名

特定非営利活動法人きんきうえぶ 寺田

会議記録

1. 開会

（事務局：坂口）

2. 議事

（増田会長）

皆さんこんにちは。10日くらい早いですかね桜が、私どもの大学も4月7日に桜祭りを予定しているんですけど、葉桜になっているんちゃうのかなど。ここのまちづくり会議も葉桜になっているかもしれない。これは少しだけお話しすると、1月の低温期に開花するためのスイッチが入って、それからの積算温度。毎日の差の温度を足して行って、ある一定の温度になると花が咲くと。気象庁が使っているのは青野式と言う呼び方をしてて、これは府立大学の農業気象の先生が長年かけて創った方程式で、それでほしい1月の気温からほしい予測して開花予測が出来ると。そんなことなんです。

その先生面白いことやってて、平安時代とか奈良時代の気温って記録残ってないでしょ。だから反対に日記からどの時期に桜の花見をしたかとかいう日記が結構残されていますので、反対に開花した日記からその当時の気温を予測するという古気候というのをやってまして、まあかなりその当時から考えると、かなり気温が上がっていると、そんなことされてて、この時期ちょこちょこ名前が出てこられます。私より5歳か10歳くらいお若い先生ですけど、まあそんな余談ですけども。

それでは今日の平成29年度の最後ですけれども、第2回の推進協議会を開催したいと思います。

お手元にございますように「金剛地区再生指針推進の取り組み報告」というのと、「今後のまちづくり会議の運営」についてという2つが議事ですので、随時進めていきたいと思ひます。4時くらいを目標にと思ひておりますけれども、活発な意見交換が出来ればと思ひております。

それでは、まず議事2(1)「金剛地区再生指針推進の取り組み報告」、これ寺田さんの方からお願いできるということですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(1) 金剛地区再生指針推進の取り組み報告

(きんきうえぶ：寺田)

- ・資料1説明。

(事務局：坂口)

- ・シンポジウム開催概要説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。あと、先ほど少しご紹介のあったその他の取り組みということでコトナのところ、少し岡本さん追加説明いただけますか。

(岡本委員)

この会議が始まったのが2年前ですかね。参加させていただいてからの皆さんとこうやって出会えて、色々な人たちの要望というか、意見というのを聞く機会をいただいて、URの店舗を何とかしたいという商店の人の声とか、あと金剛エリアには居酒屋がない、喫茶店もないとか、あとは若者がまちに来てくれへんかったらどないもならへんとか、あと寄り合う場所ないねとかいう声がいっぱいあるのにすごく刺激を受けながら、子育て支援のやっぱりNPO運営していると、自分たちのことは考えられるけど、その周りの人たちの声をあんまり聞く機会はなかったんですけど、そういう機会を得ることが出来て、私たちは待機児童の問題とか保育所が預かってくれる人いてないねということで、課題意識を持って参加させてもらっていたんですけど、なんかそういうものを一体に何か出来ることはないだろうかみたいのを、そういう皆さんとの出会いがきっかけでした。その中で、寺池台郵便局、URの空いているところを活用して、そして待機児童も解消ということにはならないんですけど、っていうようなことを役所に言いにくいというきっかけになったんですけど、でもそれでもURさんはURさんの考えをお持ちだし、未来室っていう子どものところは子どもの部局があって、皆それぞれお仕事されている中で、まちづくり推進課はそれを一生懸命横に繋ぐような動きをして下さったというか、私たちに寄り添って下さったということもあって、この度本当にどうなることやらって頭抱えることが18回くらいあったんですけど、そこを皆さんに支えてもらいながら、その隣でけあばるさん井筒さんとかも頑張れと言って下さったりとかあったり、待機児童は本当にいるよって言うてくれる人がいたりとか、ここが開いたら溝口さんもお花まで持ってきてくれたりありがとうございます。温かく見守られているなと思ひていますので。

で、待機児童の解消だけじゃなくって、こうやって皆の居場所になったらいいねっていうようなことを叶えていけるような場所になっていけばいいというか、して欲しいなっていう風に

願っていますという感謝とともに報告です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。あと、楽農クラブはちょっと補足いただけますか。

(中井副会長)

楽農クラブはですね、伏山の小学校の下で芝本さんと言う方が農地を持っておられまして、その方の農地をお借りして、年間を通じて、耕作をしていくと。ただ、作るものは自分らで順番どう回すかっていうのを考えた上で、現在取りかかったところですね。横に老人福祉施設がありますので、その入所者の方と交流をしながら作物が出来たら一緒に採ったりしていこうと。まだ今種まいたところですので出来てませんが、そういうことによって我々居場所づくり等をやっていこうと言って、現在8世帯の方が参加されています。興味のある方は参加してもらったらいかなっていう風に思います。まあ年間通してやっていくんですけど、生ものというか天候ものなんで、なかなか雨が降ったりして畑自体がジュークジュークになっちゃって、どうも動きが取れないということになって、次の種まきも日のべになってまして、次明日ぐらいにあるかと思えます。そんな活動をやっています。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。この新たな居場所づくりの拠点は、今日はいらっしゃる。いらっしゃらないよね。

(事務局：坂口)

そうですね。当人はおられないんですけど、地区内の住宅の一部屋を借りて、本当に個人の持ち物として借りたんですけど、ここ皆使って何か出来へんかなということをおっしゃってくれてはりますので。

(岡本委員)

そこで蕎麦打ちを教えられようって早速そんなことをいう人がいたら、蕎麦打ちをやりたいって人がそのまちづくり会議のメンバーの中にいて、もう5月7日にじゃあやろうよみたいなことに。

(事務局：坂口)

居場所、居場所って議論が出てたので、でもなかなか市もそんな集会所つくるわけにはいかないって言う中で、私もう自分で借りるわって言って、勢いで借りてしまったんですかね。

皆何かせえへん、何かせえへんって会議の中でおっしゃってる中で、じゃあ蕎麦打ちでもしよかっていう声が出て、これが5月7日の日に実現しそうなの。で、これからどう活動していくかは検討中ということで。いくら個人のものとはいえ、ただで使いまくるって訳にもいかんのかなって思いながら。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。議事1の方のこの1年間、足早に取り組んできた内容を報告をいただきましたけど、何か質問とかお気付きの点とかございますでしょうか。いかがでしょう。

これ例えば、6ページ目の4つの部会を設置して活動中と。これ参加者15名とか18名とかありますけど、これの中で部会のリーダーが見えてきている部会とまだ見えてきてない部会があるかと思うんですけど、どんな状況ですか。

(コンサルタント：寺田)

はい、4つの部会を前に映しているんですけども、1番わかりやすく個人的にもなるかもしれないですけど、イベント企画では今後4月からマルシェを開催していくっていうのも、決まっているんですけど、今日来られている市川さんがリーダーになるんじゃないかなと思っているんですけども。今日の朝とかもフェイスブック等で銀座商店街でマルシェ開催とかっていうのがPRされていたんですけども銀座商店街で活動されているっていうものもありますけども、まちづくり会議のメンバーとしても、リーダーになっていただけるんじゃないかということで、今お話しいただければと思っているんですけども。いかがでしょうか。

(増田会長)

少し岡本さんみたいにご紹介をいただければ。

(市川委員)

ありがとうございます。ご紹介に預かりました市川です。そうですね、一応金剛バルもしながらってこともあるので、僕自身こんなするのが好きで、好きな形でさせてもらってますし、結構自由にさせてもらえるって形でおるので。金剛バルの方は、まあ一応今期で会長って形が一旦終わるので、手空くというのがあるのでこっちの方にも力入れていけたら。

実際商店街のところは、自分のところのお店にも回り回って最終的には影響出てくるんじゃないのかなっていうのもあるので、楽しみながらさせてもらいたいなとは思っています。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他はどうですか。まだまだこれから探していかないと。

(コンサルタント：寺田)

そうですね。居場所づくりに関しましては、岡本さんもそうですし、あと包括さんで井筒さん等にも参加していただいているのと、あと今活動の中心とは言えないかもしれないですけど、積極的に係わって下さっているのは、もっぱら福祉委員会等で活躍されている方等が中心となって、色々行っているかなと。

さっきの高辺プラザでのカフェ等もですね、元々福祉委員会でもあり、まちづくり会議のメンバーでもある方が、福祉委員会で毎月行っているDVD鑑賞会に合わせて、カフェも開催していこ

うという動きだったりするので、居場所づくりに関してもちよっと出てきているかなというのがあります。

公園活用と防災活動に関しては。

(中井委員)

公園の方は今自由に参加されている方、中心で動けそうなのは5、6人おられるんですけど、どうしても日にちが空きすぎると前回やったことがすっかり忘れてしまうっていうのがありまして、動ける人間だけでも寄って、月に2回とかやらないと中身が全然進まないねって話が今出てる場所なんで、その辺で幹事会と言いますか、そんなんつくらないかんだらうという動きになっているところなんです。中心になりそうな人は4、5人いてるという感じですね。

(増田会長)

なるほど、わかりました。ありがとうございます。あといかがでしょう。

例えばこれ金剛バルね、市川さんね。金剛バルの中でまちづくり会議とバルの実行委員会というのは関係性というのは、どんな関係性なんですか。極端なこと言うとバルの中の1つのブースなり、1つの役割としてまちづくり会議があるという感じですね。

(市川委員)

そうですね。今は金剛バルの中で出店という形で、協力いただいている。ここでも実際実行委員が今日休んでる中西さんとか、岡本さん、寺田とかにも、実際バル実行委員のメンバーでもあるので、細かくやりとりとかコミュニケーションとか取るかなと。今後どういう風に協力してもらいながら、進めて行けるかなっていうのは思っています。

(増田会長)

あとは同じページでマルシェの開催で農業を創造する会とこれから定期的にされると。この時のまちづくり会議との関係性はどんな関係性になるんですか。

(コンサルタント：寺田)

主催がまちづくり会議という形に。

(増田会長)

なるほど。これは主催がまちづくり会議という形になるということですか。

(事務局：坂口)

協力として農業を創造する会さんに来ていただいて、各店舗に来ていただいて、あとまちづくり会議の方でその他の出店者を募集して整理して、それのとりまとめを市川さんをお願いしているところなんです。URさんの協力も、場所の。

(増田会長)

場所の協力はね。あといかがですか。あともう1つ私が気になるのは、今の話で例えばマルシェを開催する時の場所の確保、それと役割分担と、それと後、要するに収支みたいなやつをどう考えるのかと。例えば、場所は基本的には、ただで借りれると。

(市川委員)

そうですね。銀座商店街の前の広場は、ただでというか、URにお願いして。

(増田会長)

URの協力で場所代は要らないと。それに対して光熱費みたいなのはかかるんですか。

(市川委員)

今のところは、基本的にはかかってないですね。基本的に出店していただくのにも、今の規約の中では調理とかは無し。もし、今後キッチンカーとか呼べたらいいかなとか思うんですけど、それに関しても電気が必要な方は発電機を持ってきてくださいということで。

(増田会長)

なるほどね。自己責任でという、出店者の。

(市川委員)

こちら側からの貸し出しであったりとか、そのいうのは基本無しということでしていく予定なので、マイナス面はないので、唯一あるんやったらチラシとか。そういう部分になってくると思います。

(増田会長)

広報ね。広報に関しては、今後メールみたいな広報ですか。チラシまでやるとたぶん印刷代が出てくるので、その辺はどんな感じですか。

(コンサルタント：寺田)

一応、今回は4月からの開催に関しては、出店料とかは考えてないんですけど、今後このマルシェ自体を継続的にずっと開催できるものにするためには、やっぱりちょっとでも出店料を取って、こういうチラシとかの広報に回せるお金を確保していかないといけないと考えていて、それは前回の反省会とかでも出ているので、今後は出店料を取る。で、出店料を取るためにはまず規約等をちゃんと作らないといけないので、そういうところから入っていくっていうのと、今年度に関しては、まだ刷る予算はあるので、今回のチラシに対してはそれに対応できるんですけど、今後のチラシに関しては、出店料等を考えた上でこのマルシェを定期開催できるようにしていかないとダメかなと思います。

(増田会長)

ちょうど私も、1か月程前に大阪のグランフロントの前のSHIP HALLで、ちょうどグランフロントの広場のところでマルシェを開催したんですけど。それ「ぐるナビ」という企業が関連して、出店料取ってと、その代わりに「ぐるナビ」が責任を持って広報すると。あとの収支は基本的に出店者が自分で収支を取ったらいと。ただし、「ぐるナビ」がもう1つやっているのは、統一したテントとか統一したテーブルやとか出店台とか、そういうのを「ぐるナビ」が提供しているんですね。それに見合うのが出店料と。そんなやり方でやっていますけどね。今後そんなも必要で、例えばもっと盛り上がってくると、統一したテントにしよとかそんなもんも1つひよっとしたら出てくるかもしれませんし、もう少し緩やかに協定みたいな形の中で展開するかとか。

はい、ありがとうございます。これたぶん全て今後の活動というところにも関連してくるんでしょうけど、直接経費がどれくらいかかって、それをどう賄うんやみたいな話ね。直接経費の1番大きいのは会場費が必要な場合には会場費。あるいは、賃貸の一部屋365日借りているんやったらその賃貸料という場所の確保。それは主体の協力者によってただの施設もありますし、有料の施設もある。ケースバイケースですけど、それが直接経費の1つですよ。

もう1つは広報ですよ。チラシやとか、そういうやつの広報。で、もう1つは消耗品。大きくはそれくらいであとは人件費とか交通費とかは全部ボランティアですから、自分らの持ち出しと。少なくともそのあたりを今後どう考えていくのかというのは1つ大きな課題かもしれないですよ。活動をやっていく時の。

で、プラスここで公園活用部会の場合なんかは、専門家を交えて行うフィールドワークと。この時、専門家は有料で呼んで来ているんですか。それとも自分らの中に専門家がいてるんですか。

(コンサルタント：寺田)

前回のフィールドワークの際は、無料で来ていただいてっていう形で開催しました。

(増田会長)

もう1つお金がかかるとすれば、そういう講演者とか、パフォーマーにお金を払って出演してもらるか、講師謝礼を払うかとその辺で経費ですよ。そのあたりですね。そのあたりのことも考えてひよっとしたら来年度の計画をどう作っていくのかというところに進んでいくのかと思うんですけど。

あと、今年度の活動の中でどうですか。こんなことを皆で共通認識として持っといた方がいいよとか。はいどうぞ。和田さんどうぞ。

(和田委員)

社協の和田です。1年間色々な会議に、この会議も含めてですけど、通じて皆さんと出会って良かったなあと思っているんですけど、後から参加してくる人からすれば分かりづらいという。どの会議がどうでとかっていうのが分かりづらいっていうのがあったのと、進捗があんまりよくわからない。何を目指してどうしていくんかっていうのが分かりづらいっていう意見もあったのが確かです。で、私いつもこの冊子を持ち歩いて、こういうことを目指している会議で、今はこういう部分を頑

張ってやろうとしているんだよってという風な説明をするようにしているんですけど、今この1年がつつり4部会を回して、その他のこともやっていることは結構この中にしっかり入っていることで、丸々その写真がサンプルでここに出てるのがちゃんと富田林バージョンで埋まっていくん違うかなって思うので、まちづくり会議とかこの推進協議会自身の報告の仕方自身も、この冊子を基に変更をかけていくというか、これの富田林バージョンが仕上がるような、目に見えて皆がわかるような仕上がり方、目指す方向の示し方っていうのがいいんじゃないかなと。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。これ例えばまちづくり会議の広報でなんかイベントの時に、まちづくり会議ってこんなもんよっていう、まちづくり会議とはが一目でわかるポスターってあるんですか。

(コンサルタント：寺田)

そうですね、今はポスター等は無いですけども、一応配れるものとしたらニュースレターを発行しているので、ここで一応まちづくり会議とは何ぞやについては説明等もしていて、指針についても触れているって形ですね。

(増田会長)

なるほど。たぶん今和田さんから指摘があったように、3枚のパネルとか、4枚のパネルで目標は何やと、メンバーはどんなやと、1年間どんな目標にどんな活動をやってきたんのか、今後やろうとしてるのかみたいなやつが3、4枚のパネルになっていると良いと。

(和田委員)

なかなかそこまで仕上げるっていうのは難しいと思うんですけどね。1年間にこの冊子の中のピックアップの4点くらいしか事業できないと思うんです。だけど、今年はこのページを頑張ったんだよみたいなので十分だと思うので、ここのピックアップした部門がこうなったっていうようなパネル1枚、これ拡大したものとかがいいん違うかなとは思っています。それが積み重なって5年、10年ってなっていくことで全部網羅していくっていう。

(増田会長)

これよくね、前回宝楽さんに講演に来てもらったように、他所から呼ばれてまちづくり会議紹介してみたいな、プレゼンしてって言われるとそういうポスターが出来るんですよ。説明せざるを得ないんで。

(岡本委員)

今和田さんおっしゃってるのは、まちづくり会議とか行ってて、いつもあれ持ってきてくださって、話が急に小さくなったり大きくなったりする時に、だからねここに書いてあるやんっていうことなんです。

(増田会長)

そうそう。それは指針がある意味、皆のバイブルになっているという風なことを目指すわけですよ。ぶれない。

(岡本委員)

小さい話も大きい話も大事やねんけど、だんだん話がワイドになっていく時の、戻る地点みたいなものに今年はこれやったよねっていうのが確認できたら、私達より具体的だなって今おっしゃってるということです。

(増田会長)

この頃、私の活動しているところでは結構皆、自分でフェイスブックしたりとかツイッターしたりしてるから、そういう情報発信に長けた好きな人がいて、広報部会って今きんきうえぶに仕事としてやってもらってますよね。自分らの部会の中に広報部会って結構あるんですよ。自治会でもそうですけど自治会の中で広報課っていうのがあって、年何回かの自治会便りみたいなものを作るのが得意な人いてるでしょ。こんなまちづくり会議でもそんな広報が好きな人ね。パワポのデータを作ってみたりとか、ポスターを作ってみたりとか、広報の好きな人がおると1つはそういう部会が成立するとうまいんやろうなと。

で、高槻の駅前の公園を皆で作り続けましょうっていうので、35年開園予定の公園ですけど、もう活動がスタートしてて、公園の宣伝とか自分らがやっている活動を市内各所で何かイベントがあるごとにポスター持って行って宣伝してくれる広報部会っていうのがあるんですね。そんながあると、どっかでそやから指針ベースにしたちょっと分かりやすい冊子なりポスターなりっていうのをちょっと作ってとくのが良いかもしれませんね。はい、どうぞ。

(溝口委員)

今先ほどから広報の話が出てきて、自治会便りが出てきて、金剛団地の賃貸の部分は、常時空き家が500戸くらいあって、4500戸くらいが入居なんです。そこに毎月全戸にこういうニュース配る。今回このニュースの中にマルシェのイベントの広告を。これ以外に実際に居住者は、このまちづくり会議っていうのがどういうものであるかっていうのはほとんどご存じないんですよ。広報で知るか、あるいはホームページで知る。そこまでしてまちづくり会議って検索するっていう人は、高齢者も多いですから。そういう人たちに少なくとも金剛団地自治会としては、まちづくり会議に参加している。それを居住者にどういう形でどれくらいに知っていただくか。とにかくこういうものがあるよと、こういうものがありましたよと、こういうイベントがありますよって、まちづくり会議が市の金剛地区を再生するための武器として活動してますよっていうのを知っていただくために、これを見ていただけるかどうかは別として、もうとにかく強制的に4500戸配布しているわけ。だから、今度の第1回の金剛マルシェの時もやはり賃貸の真ん中の銀座街でやるっていうこともあって多くは団地居住者が多かった。そういう人たちがなんでマルシェを知ったかっていうことになれば、こういう方法も1つの意味があるだろうし。そういうことを今度例えば高辺台の、

私達新高辺台って30棟から66棟のところ言うてるんですけど、非常に土地が狭いんです。その土地が狭いところで、今コープの移動買い物便を5か所でやっているんですけど、その地域は車が入れない狭い地域なんで、そこだけは入ってないんです。そこの人たちから今回苦情があったのは、金剛マルシェは銀座街でやれて、その人たちは幸せやと、私達は差別されていると。そういうような見方。だから12棟で移動便があるわけですから歩いて5、6分で行けるんですわ。だけど、目の前でやってもらえるという地域と比べたら、自分たちは差別されていると見るわけですね。ですから、それはうちの自治会としても金剛マルシェの創造する会の人たちと話し合いが出来れば、その今言ってる新高辺の地域の集会所でマルシェをやりたいなと思っているんです。これはまた創造する会の人たちと話をする中で、買い物難民までとは言いませんが、やはり他で上手く利便性が良い買い物が出来ているのに、自分とこだけはっていうものがどうしても社会ではあるわけですから、それを解消するための1つのツールとして、そのマルシェが利用できるかなっていう風には思っています。

(増田会長)

分かりました。ありがとうございます。1つはあれですよ、各自治会さんがつくられている便りにこの活動を年2回くらいは1マスもらって紹介するようなことを出来ませんかみたいなやつを、あるいはイベントの時、市の広報よりもむしろ各自治会さんが出されている便りとの連携みたいな話が1つですよ。今おっしゃっていただいたように。やっぱりそのあたりで言うと、裾野が広がっていくはずやと、それをきっちりやったら。そんなあたり1つかもしれませんね。ありがとうございます。そんなことですね、1つは経営という視点の中で見ていくという視点と、もう1つはまだまだ情報発信というところが足らなくて、もう少し情報発信でこの活動の周知というあたりについてもう少し考えたらみたいな話ですね。そんな話が出たかと思います。ありがとうございます。

そしたら、今年ですね、このまちづくり会議を具体的に継続運営していくためにどんなことを30年度考えやなあかんのかっていうのをちょっと寺田さんの方から何点か話題提供いただければと。

(2) 今後のまちづくり会議の運営について

(コンサルタント：寺田)

・資料2説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。来年度活動を継続していくためにということで、少し頭の痛い話ですけど、ここをクリアしないと継続できない。何点かキーになる点をご紹介いただきましたけど、皆さん方でいかがでしょう。

1つはこの推進協議会は横に置いておいたらいいと思っているんですね。極端なことをいうと、まちづくり会議が自立運営されたら、この推進協議会っていうのはどちらかというと黒子の方になってアドバイザーボード的になる。意思決定機関ではなくなっていくだろうというのが1つの方向性かなと

思いますので、この推進協議会よりもむしろまちづくり会議が大事で、まちづくり会議って一体、そこにもございますように代表やまちづくり会議の目標とか、どんなことをやるんですかという事業をやるときの定款に近いようなものですね。NPO法人であろうと一般社団法人であろうと任意の団体であろうと活動の目標は何で、どんな活動をやって、どんな効果を期待して、その執行部体制と人員配置がどうなっているか、みたいなそんなんがいるんだろうと思うんですけど、その辺についていかがでしょうかね。その時に2通り考え方があって、1つはいつまでも全員協議会で全員会議という直接民主制のようなことをずっとやるのか。あるいは部会が今4つありますけど、部会の代表、副代表とまちづくり会議の代表、副代表ぐらいで執行部会議的な。あるいは世話人会議的なことを頻繁にして活動を積み上げていくみたいなやり方と、あろうかと思うんですけどね、その辺どうでしょうか。それに対して1年間の部会で、あるいは全体会議で「こんな1年間の活動をしたい」ということがおおそ目標が立てられると、それに伴ってどれくらいの直接経費がかかってくるかみたいな計上ができると。そうしたら必要経費をどうやって捻出しましょうっていう話になっていくと思うんですけど。いかがでしょうか。どこからでも結構です。

(友田委員)

ちょっと1点いいですか。今4つの部会があるって言ったじゃないですか。やっぱりとりあえず今動けることとかそういったことでスタートしてしましてね。当面のことを割とやっているんです。実のところ、例えば公園部会であれば、「将来的に公園をどうしていくんですか」とかそこにスポーツ施設があるのでそういった施設をリニューアルしていくっていう方針もあるんでね。そういったものを行政ではなかなかできないでしょうから民間を入れながらどういう風に空間を変えていくのか、とか。それとこのニュータウンを再生するにあたって、そういうイベントとかも大事で、地域の方々のつながりを強化していきますけど、空間自体の魅力とかそういうものをどういう風にしていくんだとか、そんな議論がまだできてないんですよ。そこのところをもう少し議論して深める準備をして、将来的にはこういうものを目指していて、それは各々の部会ごとにあって、当面はそのためにこういうことをしています、みたいなある程度のプログラムっていうかね、そういうイメージができて、それで議論をもう少し深めるっていうことをしないと、じゃあどういう体制が各々の部会でいいのかとか、というのが今のところはすぐに見えないのかなという気がしないでもない。そこのところをもう少し深めるような作業があるのかなと。じゃあそれをどうやってやるんだろうというときに、部会だけじゃ、例えば公園部会だと公園だけで議論するんじゃないし、公園と防災と居場所が一緒になって議論するとかね。そういうようなことをしないと広がりが出てこないし、深まりも出てこない。するとやっぱりその各々の部会でリーダーとなっている方がおられるので、そういった方々が一緒に集まって少し密な議論ができるような場を設けるっていうのが、1ついいのではないかなとイメージしています。そういうことを少し繰り返して、あとは代表的ことを誰にしていきたいと思いますっていう議論ができるのかなと。その議論をもう少し煮詰めた方がいいかなと思っています。

(増田会長)

はい、いかがでしょうかね。1つはやっぱり世話人会議みたいなやつ、まちづくり会議で従来メンバーとしては40数名。もっと増えているんでしょうね、たぶん。4、50人のメンバーが常に会議を開いて何かを意思決定していきながらやるというのは結構大変で、部会で密な議論をして世話人会議的なと

ころで全体会議をするようなそういう二段の仕組みが1つはあるのかなと。

で、もう1つは、あまり難しいことを考えるよりも将来的なビジョンみたいなやつが描ければいいんですけど、あまり目標を大きくしたり難しくすると結構大変なんで。私なんかはむしろ小さな成功事例、あるいはできるところから小さくスタートするみたいな、そういうことの積み重ねの中でビジョンへ繋げていくようなやり方も1つあるのかなと。あまり大層な公園再整備計画みたいなやつを目指しながらこんな活動をしましょうとか、ニュータウン再生整備計画の具体的なハード整備までつながっていくような目標像みたいな話は、たぶんさつき和田さんが見せていただいた再生指針があるので、大きなところについては、むしろ活動そのものとしてはもう少し具体的な話の方がいいかなと。バルなんかはどうされているんですか。部会みたいなものがあるんですか。それとも執行会議みたいな。

(市川委員)

特に実行委員会だけで会議で決めてやっているっていう形ですね、そんな部会とかではなくて。その中で役割っていうのはもちろんあって、出店をする人がいて会計がいて。ペットボトルツリーで保育園とかと一緒にまわらしましょうかっていうものとか。

(増田会長)

なるほど。それは何人くらいで。代表会というか幹事会みたいなものは。

(市川委員)

8人。7～8人。それぞれポスターをつくってくれる人、岡本さんのところだったら保育園や幼稚園に連携が強い人。それなら僕と一緒に保育園をまわってペットボトルツリーのお願いをしにいきましょうとか。ステージの管理をやってもらったりとか。

(増田会長)

たぶん金剛バルみたいなやつは1つのイベントを目標にしているから、割とそのタイプでいいですよ。ここは4つの目標があるので。各部会には今おっしゃってようなやつが必ずあって。世話人とコアメンバーというんですかね、世話人とサポーター的な人が当然両方いらっしゃるから。

中井さん、いかがですか。

(中井副会長)

4つの部会のうち、居場所と公園に一応参加していることになっています。何が今一番不満かって言いますと、会議で集まる回数があまりにも少ない。公園にしても居場所にしてもそうなんですけど、全体の会議が3、4か月に1回ですね。それに合わせて部会もその程度の集まりしかないんで、皆さん中身を色々議論していこうという状態には実はなかなかならない。そういうことを考えると、先ほどおっしゃったように世話人もしくはコアのメンバーの方が密に集まって、何をしたいのかどうしたらいいのかを議論できる場を1週間に1回とは言いませんけど、せめて2週間に1回くらい集まってくると1時間でも2時間でも雑談の中でやっていって、それが積み重なれば幹事会といたら言い方が悪いかもしれませんが、幹事会的に部会の中で部会の活動が3か月に1回でもできていくのではないかな、方向性が見えてくるんじゃないかなと思うんで。要は回数があまりにも少なすぎて実は忘れていく。前に何

を言ったかなっていうのがありまして。それをもう少し、自分の頭に残っている間にやっていただければありがたいかなという風に思っています。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(岡本委員)

私がまちづくり会議で今一番課題だと思っていることは、楽しんでやっていきたいなと思うんですね。コアなメンバー、一番最初の新たなメンバーについて、の議論になるんですけど。まちづくりっていうものを捉えたときに自治会っていったときには住民主体の人たちのグループと、私もですけど事業所として関わっていて、自分たちはそこには住んでいないけど、その人たちと共にまちをつくらうと思ってやっています。そのことをもっと明確にしたまちづくり会議のフレームをつくらなあかんのちがうかなって感じるんです。だからどっちも大事。住んでいる人も大事、どっちかが大事じゃなくて、その人たちとそれを取り巻く人たちもいてのまちづくり会議のメンバーなんですよ。住んでいる人はさほど変わりはないけど、周りにいる人たちは流動性があって、そこはメンバーに風通しがあって、「ここは誰と誰としか入れない会議なんで」ってなりがちなところ、そうではなく、住んでいる人たちもいるけれども、そこに風を吹かす人たちもいて、それを柔軟に受け入れていけるような会議のフレームとしてあればなど。それでいうと「部会」という名前ではばって、「その誰々が代表者です」みたいなことになっていくのが、そのフレームをゆるやかだけどもがっちりつくってというのが大事だと思っているんですけども、それをどういう風にやっていくかアイデアがあればいただきたいなと思うんですけど。あんまりないじゃないですか。がっちりした住民もいながら、周りに柔軟に今日来たり来なかったりする人もいて、やめていったり抜けていったりする人もいる、みたいな緩やかな、そんな何かアイデアないですか。

(増田会長)

それは俗にいうプラットフォーム。要するに本来的には個人資格がいる。たぶん3つの階層があるんですよ。自治会という地縁型組織ともう1つはテーマ型の、子育てネットや防災だとか、テーマ型でやっている組織、それと事業者、営業というものを通じて地域と関わっているというこの3つくらいの階層があるんやと思うんですけど。それは極端なことをいうと、会を代表して参加しているという話ではなくて本当はむしろ出来たら個人資格の集団やというのがうまいかなと思っているんですけどね。

ただし、自分の自治会便りなんかを出すときには自治会とのネットワークは持っていますよと。そういったことがプラットフォームと言われるもので、あまり何かの組織を代表して来ているので地域に持って帰って合意形成しないと発言できませんというような形になると動けなくなる。

プラットフォームというのは自由参加で、かつ情報交流ができて、かつそこから今回まちづくり会議と農業を創造する会が連携して定期市みたいなものをやりましょうかっていう行動起点になっていくと。そんな風になればいいんですけどね。

(友田委員)

金剛の場合、どうしても自治会が弱いつていうか輪番制になっていて1年ごとに会長が代わって。そ

ういう風になっているんで、自治体自体が活動するかっていうのはなかなか難しい状況があるんです。しかしながら、自治会っていうのは外せないんでね。地縁的な自治会とテーマ的な、岡本さんがやられている、市川さんがやられている、そういったものと連携して新しい地域のコミュニティをつくっていくっていうのは新たなコミュニティの在り方みたいなものだと思うんです。そういうものを目指して活動を広げていきますよっていう形にするとね、自治会の代表として来るんじゃないしに、一住民として来て、さらに各々の活動をされている方たちが活動して、それでモノを動かしていく。ただその時に、その活動っていうのは、地域の方で住んでいる方が自治会に伝えていく。それを増やしていく。そういうものを目指すのかなと思っているんです。

先生よく言われている「ホスト」と「ゲスト」っていう話があるじゃないですか。自治会が全体に「ホスト」になることなのか、自治会が「ホスト」になることはなかなかないかなと思っているんで、むしろちゃんと知っておいてくださいよ。いざというときは参加してくださいよ、と。その代わりにコアというメンバーのところが色んなことを動かしていくんで、その時は色んな意見をくださいよ、というような柔らかい関係をコアメンバーと地域との関係をつくっていくというような自治会を目指そうとするとな、先ほど言っていたような各部会の代表ではないですけど世話人みたいな方々が集まるような会議をいかにつくっていくか。それをいかに動かしていくかっていう仕組みを目指していったらどうかかと、コミュニティ的にはね。その母体をまず1回つくってみるのも1つかなと思いますけどね。場所と。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(皆見委員)

もっと簡単に考えられへんのかなと。部会にしても今何が必要かって言ったら、まず部会を引っ張っていけるリーダーの方と当面の目標を何にするのか。例えば30年度活動としてどういうことをやるんやと。居場所づくりやったらカフェを何回開催するとか、イベントやったら金剛バルの出店をもう少し充実させるとか。防災やったら29年度にされたように寺池台で防災訓練をやろうとか、そういう目標をまず持って。例えば防災にしても小学校・中学校単位でやる。小学校は場所の提供をしてもらえますし、やるとなれば地域の自主防災組織になしでは実現できひんし、自主防災がなかったら町会を巻き込んで、こういうことをやるっていうことについて協力を仰いで、自主防災組織の役員の方もおられるんで、こういう方たちと話をして、そうしたら防災訓練で実際どういうことをしていこうとか、広がっていくと思うんですよ。まず何か簡単な目標をたてて、今年は例えば12月にこれをやるという目標に対して動こうと思ったら2ヶ月に1回で集まっていたら話になれへんから、月1回にしようか2週間に1回にしようかということになっていけば、だんだん目標に近づいていくと思うんです。いきなり大きい目標を掲げるんじゃなくて、今の組織でできる目標をつくって、それに向かってまず動く、何かしていくということであれば、自治会にも地元住民にも巻き込まなあかん話になっていくんで、それがどんどん広がっていくんじゃないのかなという風に考えるんですけども。

(増田会長)

はい。先ほどからの議論の中で、この部会というとハードみたいに見えるんですよ。箱ものみたいに。こういうまちづくり会議の部会とかいうのは、ハードではなくてソフトなんですよね。公園活用、居

場所づくり、防災プログラムに参加したいメンバー、自分は3つのプログラムに参加しててもいいわけです。それをきっちり、あなたは防災活動部会のメンバーだから公園活用部会に来てはダメとか、そういう風にせずにプログラムやと思うんですよね。ただし、プログラムをどうやって実現するんですかという実行体制をとったらいいいので、こんな言ったら怒られますけど金剛バル部会があってもよくなって。金剛バルはそれを成立させるための実行組織をもっている。そんなと一緒に居場所づくりも実行組織どんなもっていますか、と。あるいは公園活用部会で実行できる人は何人かいますか、そのプログラム間の調整をするような、あるいは協力しあうような会議が1つは必要なんじゃないかと。まちづくり会議のメンバーというのは必ずしもどこかの部会に参加する必要はないんじゃないかと思うんですが、その辺皆さん方にお聞きしたいんですけどね。どこかに参加しなくても会議のメンバーです、と。広報とか口コミ広報的なメンバーっていうのか、後々の話でいくと何かをやるための会費を集める、会費を支払ってくれるメンバーとか。あとはプログラムをどう実現していくかっていう仕組みを考えたらいいんじゃないかなと。そうすると皆さんの言ってるあんまり堅くしない、自由度を確保するけど、というような。

行政がやるとついつい協議会なんかでも1号委員から8号委員まで区分するんですけど、あんまり必要なくて。極端なことをいうと、やりたい人がメンバーや、みたいな。極端なことをいうと部会ではなくてプログラムやから継続するプログラムもあれば途中でなくなるプログラムもあるかもしれん。

(岡本委員)

新たなプログラムが生まれるかもしれへん。

(増田会長)

そうそう。また新たなやつが生まれてきてもいい。

(和田委員)

1年間やって、イメージがついてきたと思うんですよ。だからお金のこととか大きいこととかの話になっていきていっている、発展している。で、今困っているのは小さいお金のことで困っている。18,000円も出されへんっていう話じゃないですか。ある一方では行政内部で元気なまちづくりモデル事業のお金が出ていたりとか、ちょっとしたお金なら使っていていいですよ補助金みたいなものを活用できたり、他の企業で協賛金や助成金をもらえるっていうのを各部会間で、その議論に入っていく段階に今なっているんでしょう。ここでまた年度が替わって入れ替わっていくので、もう一度そういう話をして、そういうところを目指していくんですよっていうのは実現できるんじゃないかなって。ただ10年間の中の今、短期の部分かもしれへんけど、もう中長期的な話をしていかなあかなってという段階であるとは思う。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(溝口委員)

推進協議会っていう場なんで申し上げますけど、本来もともと金剛地区再生指針をつくるためにス

タートしている。その協議をする中で1年間やって再生指針ができあがった。その時の当初の論議というのは、この金剛地区をどのように再生していくかという非常に大きなテーマがあったんです。それは市の予算がらみの問題になってくる。例えば公共施設をどうしていくのか、公園をどうしていくのか、空き家対策をどうしていくのか、こういうものが金剛地区を再生していくためにどういう手順、仕組みがあるのか。こういう論議の中で再生指針がまとまった。で、意見も出された。パブリックコメントがどう反映されたかはわかりませんが、うちが出したパブリックコメントでいえば、絵に描いた餅にならないようにという部分を行政に対して要望して。その集大成の中でまちづくり会議が派生してきて、6回行われた。先ほど先生がおっしゃったように、今この時期に推進協議会は私は必要ないと思うんです。むしろまちづくり会議が独り立ちして、幹事会とかそういうものをやる。その中で、個々のなんとかこれをしたというものを作り上げていくっていうのがこれからの仕事じゃないのかなと。公園部会で1つ成果があったのは、寺池を整備したということです。そういう意味ではあまりお金はかからない事業だったと思いますけど、まだ残されている例えば中央公園の問題とかということになると推進協議会という場ではなくて、4つの部会の中でも論議できる問題だと思うんです。

私はこれ以上会議を増やしてほしくないという方の意見なんですが、金剛団地自治会としては、この間のまちづくり会議でも報告したように、30年ぶりにニュータウンのリニューアルという意味じゃなくて金剛団地のリニューアル。これが6、7年スパンで始まるんです。寺池の一部が全て建物の内部は別にリニューアルされる。そこには公園も入ってるわけです。公園っていうのはこの部会の中でも出ていましたように、たくさんある公園に団地の中の公園も一部入っているんですね。それも皆リニューアルされていくということは、4つの中での部会の論議の1つの成果がある意味で今度寺池から始まる団地のリニューアル。それをどういう風に推進協議会の中なり、まちづくり会議なりに位置付けられるのか。それはURであるからこそできるのか。普通の大家だったらできないことなんです。大きな視点でいけば、まちづくり会議の大きな成果ではありませんけど、結果的には金剛地区再生の1つの形になってきているなという風に思いますんで。今後30年度ということであれば、もっと細かな会議、濃い論議をしていくのがいいんじゃないかと思うところです。

(増田会長)

だいたい皆、おっしゃっていることに齟齬はないんじゃないかと思うんですけどね。同じようなことを言って、言葉が違うだけだと思います。この推進協議会の大きな役割はまちづくり会議が自立することを支援するというのが、あるいはそれを生み出せたら本当は推進協議会は解散したらいいんですよ。あるいは、再生指針ができて、今この協議会やまちづくり会議は市民ができることを一所懸命議論しているんです。本当のもう後1輪は、再生指針をベースにして市として何ができるんですかっていう行政としての議論は本当はもう1ついるんです。ただ、今の行政をみていると、行政の内部で議論してもなかなか予算化につながらないんで、むしろ市民の動きを活性化させて、それを背景に行政も動きたいと。本音をいうとね。本当は色んな総合計画、この頃参画型総合計画やとか、参画型指針作りやとかやっていて必ず市民の活動みたいところは一所懸命やるんやけど、行政側があまりしなないと。いずれこの市民の活動が活性化していけばいくほど、それを受けて市としては何をしないとあかんのかですかということを考えていくというところに繋がっていくということが大きな目標なんですね。今溝口さんおっしゃっていただいたように。そんな仕組みは再生指針にも書いてはありますが、そういうことをどうやって実現していくかという。

(岡本委員)

色んなところでイベントが起こったら、バルをしてもマルシェをしても必ずこれだけ人が集まったらトイレいるよねっていう話が出てくるんですよ。そうなったときに自分たちの力ではどうしようもないので、じゃあ近くに公園の中にトイレがあったらいいね、みたいな。

(増田会長)

そうそう。寺池公園で伐採してもらったのも市民活動で伐採していないんです。市が予算化して伐採したわけですよ。それは公園があまり使われていない公園だと予算投入しないけど、皆がちゃんと使っていて、もっと使い勝手がいいなという話になると市は動かざるを得ない。そんな構造をつくりたいんやということやと思うんです。昔みたいにモノが先に進んで後からプログラムが展開するのではなくて、今の時代はプログラムが先に動いて、そのプログラムを成立させよう、継続させようと思うと箱とか資材とか機材とか、空間やとかがいるようになってくる。そんな仕組みやと思うんですけどね。

まちづくり会議は3つの会議があって、全体会議とプログラム推進会議、各々のプログラム実行委員会があるというぐらいに見ておいて、各々のプログラム推進会議くらいで来年度具体的にどんなプログラムをしたいのかと。具体的に公園部会ではどんなことをやりたいのかとか、4つ部会がありましたけど、イベント企画部会からマルシェ部会が独立していくかもしれない。例えばイベント企画部会は年2回の全体への広報イベントみたいなものをしたいけど、定期市開催みたいなマルシェ部会、プログラムは独立したという風なことでもいいかもしれませんがね。全部イベント企画部会にぶらさがっていても。どんどんプログラムが独立、生みだして、それが回ればいいんだと思いますけどね。

どんなプログラムをしたいのかということをもとに出し合って、それに対してどんな諸経費、直接経費がかかって、それに対して市はどれぐらいのスタートアップ支援ができるのかと。基本は行政の支援はスタートアップ支援しかないんです。長くて5年、短くて3年というような。それともう1つ考えられることはコミュニティビジネス。これはスタートアップ支援が終わった後、何らかの事業をやっていると思うと、公的に必要なサービスを担保するための委託費というか、それがベースとなってビジネスが成立するようなコミュニティビジネス化していくと。各プログラムが。そんな形になっていくのが1つの方向性だと思うんですけどね。中長期的には。そこまで今の段階で見通せないでしょうから、まずは30年度でどんなプログラムが各プログラム推進部会で。例えば自分らが公園で楽しもうと思ったら月1回くらいは現場での活動をしないと、とか。あるいは少なくとも四季の活動しないと、とか。こういうのは8、9月は暑すぎるんで8、9月くらいは休憩して、その他は毎月部会をやっているというのも結構多いですけどね。

(中井副会長)

公園に限れば、四季折々花が変わっていくわけで、そういう意味では3か月に1回、まさにイベント企画部会と一緒にやっていくか、居場所部会と一緒にやっていくか、パラソルカフェとか色々やってもらっているんで、ああいうものとセットで公園をもう1回見直していくというようなことをやればいいんですけど、そのためには前段で誰かが中心となってメンバーで話し合って、今後こうやっていきましょうって。全体のスケジュールをつくっていませんから、それが必要なんだと思うんですけど、まだその方向に向いていないところがあって。それを部会の中で統一した意見がつけられればなど。

(増田会長)

だからプログラムリーダーとか世話人という形で、基本的に部会をやっていただいて、1年間のプログラムというか、この一年間で、例えば公園づくり部会やと、何をやりたいんやと。

(中井副会長)

楽農クラブでは、最初から一年間のスケジュール、この時期にはこれを植えて、この時期にはこれを、植えるものが作物なんで時期的に決まっている。だから三か月から四か月で収穫していくというのをぐるぐる回すプランがつくられてて、それにしたがってやっていく形になっていて、公園なんかも他のイベントもそうなんですけど、年間通じて当面何をやっていけるのかというプランを作ればいいんですが、それを代表者、若しくはコアとなるメンバーで寄って、ここ二か月、三か月の間でつくれたら一番いいと思いますけれども、そういう運営に来年度がなっていないので、そういう方向に向けてもらったらありがたいかな。

(岡本委員)

この指とまれ。

(増田会長)

そう、この指とまれなんですよ。プログラムリーダーが、こんなプログラムをこんな風にやりたいから、それに一緒にやりたい人集まれみたいな話で、体力のある人は、二つ三つのプログラムに参加したらいいんです。ハードじゃないですから。

で、そんなことで後は経費の掛かるのは極端なこと言ったら、きんきうえぶの寺田さんにやってもらっているように、この会議の資料誰が作るとか、集まる日をいつ決めて日程調整だれやるんやとか、あるいは全体の広報みたいなやつ誰がやるか、ある一定下支えみたいなやつが、1年2年はいるんやろう。それもだんだん自立化していくんやろと思いますけどね、自分らで。

この指とまれは、来年4つくらいですかね。イベント企画部会、市川さん1つはマルシェの実行というのは1つ生み出しますよね。あと、それ以外に何かやりたいというプログラムあるんですか。

(市川委員)

今のところは、まだ何もないです。

(増田会長)

ないんですか。この四月の来週、桜散ってるかもしれませんがやるのは、どこがやるのですか？

(事務局：坂口)

それは、公園のフィールドワークということで、まずは伐採した公園を皆で見ようと、その中で自治会さんがさくら祭りのイベントをやってくれていますので、それに参加させていただくという。シンポジウムでも出てましたけど、お菓子なりご飯を一緒に食べながら、次の活動そこで意見交換しましょうかという。

(増田会長)

それは、各部会というか、プログラムは全員がいつでも参加出来たらいい訳で。

(事務局：坂口)

それは、皆さん来てくださいという形で。

(増田会長)

あとは、イベント企画部会は、年2回くらいメンバー拡大のための広報イベントのようなことをやるのか、或いは、広報イベントだとかメンバー拡大イベントとかではなしに、もっと地道に、月2回、二か月に一回くらいは小さなイベントを使用といった話になるのか、あるいは、マルシェの実行組織は自立してもらって、もうそこは企画部会から独立してもらうとか。

そんなんでいうと公園はどうですか。具体的に何かありそうなんですけどね。

(中井副会長)

難しいな。公園の中では、常に議論があって、寺池公園と金剛中央公園をどうリニューアルさせるかということと、全体をどう緑のネットワークで結ぶか、それをどう活用してもらうか、来年度はそういうネットワークのためのマップ作り、案内板、後は実際の絵をどう描こうかというところがあって、絵を描こうと思えば金がいるんですね。

ちょっと難しいとこなんで、自分らで出来ることはどこまでかは議論していくことになると思う。

(増田会長)

できたら、そこに楽しみはないんですか？お弁当会をするとか、花見会をするとか。

(中井副会長)

楽しみという意味では、多分フィールドワークなんですね。フィールドワークを来年何回するねんというのは、決まってないので分かりませんが、今まで寺池公園中心にやってるんで、多分中央公園を一回皆で考えてみなあかと私は思っているんですけれども。その辺のどんなワークをするかは、議論していません。

(増田会長)

今日は居場所づくりはいらっしやらないんですね、井筒さんと岡本さんとか。その辺プログラムとして何か考えているんですか。

(井筒委員)

居場所づくり部会の方は、既存の高辺プラザさんとか既にやっているところと一緒にコラボをしていったりとか、先ほども言ってくれていたように、部屋借りてくださったところで何かできないかとか、まず小さなところから1つずつ積み重ねていって、そのうちオリジナルの何か、男性がなかなか集まらないといったので、男性が集まりやすい所なんか、オリジナルでゆくゆく出来たらというお話が出て

いるところですよ。

(岡本委員)

それともくろんでいることとして、コトナの写真を見ていただいたら、家庭的保育とは言いながら、子どもだけの預かりでなく、これ郵便局の跡地なので、郵便局のカウンターを隔ててバックヤード側で保育、そのお客さんが来てたスペースのところを地域交流スペースと名付けて、事業自体は家庭的保育というフレームなんですけど、子どもにとっても地域の人と関わり合える場所というのは重要だろうねという理屈で、あそこを何とか活用したいと思っています。担い手、お客さんを呼ぶというよりは、地域の人が活躍できるような場所を作るような形を、ふわふわと考えていて、皆まずあそこでご飯を食べながらわいわい相談し合うというのを、まずはやってみたいなと。

(増田会長)

毎土曜日に料理持ち寄りパーティーみたいなやつでもいいし。

あとは、もう一点気になるは個人的に賃貸されて4月からされるということ、連携しながらどんなサポートができるのか、全額受益者負担で回るかといったら回らへんやろうから、ただし全額個人負担でというのもしんどうでしょうから。少し、その辺は考えてみないといけませんね。

(溝口委員)

これは、URの賃貸を借りたんですか。

(増田会長)

どこを借りられたかは詳しくは分からないんですけども。

(溝口委員)

基本的にURは、使用外目的は認めてないから、その辺どういう風に考えているのか。

空家を有効活用するために、例えば保育施設にするとか、防災倉庫にするとか、そういう要望を出したりはしているんです。それは、いつも使用不可能ということで、もう1つ付け加えれば、例えば、富田林市は防災で、水害の山崩れの多い地域があるじゃないですか。そういう所に住んでいる人が、その時期だけでも空き家に住まわせてほしいという要望もあるんです。それすらURの方はオーケーを出さないよ。

それはともかく、居場所づくりとしてそういうものが利用できるというのは、大いに結構ですけども、今までも居場所づくりといえば、高齢者対象に年4回、JSの支援アドバイザーが中心になって、落語会とか脳トレ体操とか、そういうものやってくる訳です。これも居場所づくりの位置付けとしていえばその通りなんです。例えばまちづくり会議のイベント部会とコラボすれば、それはそれとしてまちづくり会議の1つの発展になるかなと。これは年2回実施するということになっているんです。団地の居住者以外にも参加してもらおうことが出来るというイベントですから、イベント部会との共同という形にすれば、それは1ついいのではないかと思いますね。

(増田会長)

たぶん去年の実態を見てもまちづくり会議が主体で何かやりましたっていうより、基本的には引っ付き虫ですよ、くっ付き虫でやっていると。それでいいんやと思いますよ。元にあるやつを取る必要ないし、それと競合することもなくて、それとくっ付き虫なったり、あるいは協力関係なったり、ある時は主催であったり、ある時は後援であったりみたいな自由に考えたらいいいんやろと思いますけどね。

はい、あとはまちづくりの代表とかそういうはどうしますか。まだ今日の議論やとプログラム推進会議とプログラム実行部隊会議みたいなやつをまずはやって、全体会議はその次の段階で考えますか。それともそこまでいっちゃいますか。プログラム推進会議でお互いのプログラムの連携のあり方を出来るやろか、どうやろかという議論をしている中で、そのまとめの代表者を選んでいくという方にしますか。

(溝口委員)

だから新年度、とりあえず第1回目のまちづくり会議をまずやって、その中で今日のこういう話を報告した上で、各会を再度部会を開いて、正式にリーダーをどうするんかどうかもはっきりさせると。その上で幹事会的に運営していくのかいうものをその後にもう一辺決めるということにしないと、今ここでは。

(増田会長)

そうですね。どうでしょう、それで来年度スタート。はい、どうぞ。

(友田委員)

まちづくり会議っていうのをどういう風にイメージするかなんですけども、まちづくり会議は多くの方がまだまだ参加者少ない。自治会っていうのがまだまだ弱いので、参加者とか興味を持ってもらう人をどんどん増やさないといけないんです。するとまちづくり会議には色んな人が来てもらったらいいいんやと思うんですよ。そこでそういった裾野を増やしていきますよ。各々の部会で、それはプロジェクト会議で深めていきますよ。ただ連携する会議が1つ要と思うんですよ。それはさっき言うてたプラットフォームみたいなところの夕食会でもいいですし、とにかくそういったキーとなる方々が集まるような場所っていうのをね、そこでもう少し議論を深めたり、連携をしたりするようなものを1つ持ったらどうかなと私は思うんですけどね。

(増田会長)

それが私の言ってるプログラム推進会議。

(友田委員)

それが推進会議。4つの推進会議。

(増田会長)

いやいや、4つではなくて、4つのものの世話人が出てきて議論をする場という。だから三層構造になっていると。だれでもが参加して、全体で意識の共有ができるまちづくり会議っていうのが、別に1号委員とか2号委員とか呼ばなくても、自由に参加できるような会議体があって、その中でこの指止まれ方式でいいと思うんですね。その全体会議の中でこんなプログラムを来年こんな風にやりたいからこのプログラムに賛同する人とか協力したい人はこの日の何時に集まってくれるみたいなことは出来て。

(岡本委員)

それを発信するツールが欲しいんです。

(増田会長)

そうですね。それと各々個別にプログラムが動き出すと横の連携がいるから、プログラムの世話人会議を設定しておく、何かそんな構造にしておいたらいいのかなと。

(中井副会長)

溝口さんがおっしゃったように、次の全体会議もあるんですけど、その場でこういう各部会ごとに、コアメンバー、若しくは幹事会というか、そういうものをつくりますよということにして、尚且つそれらの各部会は連携していますから、公園だけで成り立たない。公園の中で何か行事をやって、イベントやって、そこが居場所になる。という形で今動いているので、それぞれの調整会議のようなものを作りましょうと提案していただいて、その上で各部会に持ち帰ってやっていく手順がいいと私は思います。

(増田会長)

必ず部会は、具体的にこんなプログラムを走らせたいと、そのためにはいったい何がいるんやろと。「人、もの、金」として。それは各部会というか、プログラムの中で議論をしておいてほしいですね。必ず「人、もの、金」の話をきっちりしとかなあかんと。それを役所とかコンサルに全部頼りますという話ではなくて、プログラムの実行部会として極力するという原則論の中で議論してもらおうと。そんなことで来年度スタートできますか。

(事務局：坂口)

前回の会議で5月頃に一回全体会をしましょう、そこでもう一度のどのように運営をしていくか話し合ひましょう、と言うことがあったので、今日出てきた意見を踏まえて、提案して考えていきたいなど。

(増田会長)

出来たら、もっと早めていかないと、プロセス、プロセスを踏んでいると、実態として8月に第一回とか、具体的に活動できるのが遅くならない方がいいと思います、極力全体会議は早めに開催して、一旦プログラム会議に分かれてみるというような、極力早くできないか。

(事務局：坂口)

いわゆる、まちづくり会議全体会は、5月頃考えているんですけども、4月8日にも花見会がありますし、新たなメンバーにも声掛けしていますし、校区交流会議の皆さんとも連携して一緒にしましょうという中で、まちづくり会議も様々な人が様々な立場で参加できる体制づくりを進めるという方向性も今日見れたかなと思うので。

(増田会長)

極力、関係者全員に、一堂に会しましょうみたいな形で。

(事務局：坂口)

母体を大きくしたら、この指とまれにしても集まってくる人も多くなると思うので、四月は花見会もありますし、マルシェもありますし、その中で組織を活発化させたいうえで、5月の会議を迎えろ。その経過を踏まえて、協議会では色々とアドバイスをいただきたいなと思います。

(増田会長)

多分、来年度一年間は、この推進会議は、アドバイザリーボードとしての役割をして、できたら解散すると、極端なことを言うかね。まちづくり会議へ決定権、基本的には来年度はここにはあまり決定権があるというよりも、むしろ今日みたいなアドバイス会議が出来るという形で、ちょっと置いといたらいいと思いますけどね。

(溝口委員)

会場費はかからないように何とかしましょうよ。

(増田会長)

そうですね。

(溝口委員)

ただで使わせてもらえるように。市の施設は無理ですけど、URの集会所とか。

(増田会長)

そうですね、もう1つは、最初の方に話がでて、ある意味こういうことが先行して進んでいくという部分と、もう1つは公園の再整備やスポーツ施設の再整備という、こういう議論とは違う次元の何かもう少し考えておかないとあかんと。そんなんに関して何か情報ございますかね。

(友田委員)

国の方で公民連携の支援事業みたいなのがあって、それは何かというと、公園の規制緩和がかなり進んでいるので、民間で施設を建てるとか、そういうものに対して調査をすることに補助します

よと。国の100億補助なんです。その申請期間がこの3月1日から4月13日まででありまして、ちょうど中央公園とか、そういったものについての施設のリニューアルを民間を入れながらどういう風にするのか、出来るのか、民間事業者と対話しながら検討していくと。その時に公民の役割はどうするのかとか、例えば公園用地を安く貸しますとか、他の機能をもたせるのでその部分については市が負担をする部分も出てきますよとか、容積、用途の緩和とかもあるかもしれませんけれども、そういう条件を民間と対話してつくれるようなスキームを作っていきたいと思いますという調査があるんです。

寺池公園もね、やはりもっと周遊できるような回廊のみたいなのを造ろうとすると、やはりあんな地形ですので、なかなか難しいので、それに対しても民間と連携して出来ることあるのかどうかとか、そんなのを一回検討したらどうかなと思っています。ちょうどその申請時期が来てるので、それに対して、市が補助主体となるので、市が申請して、例えばそういった施設が成り立つのかといったことを、南海さんとか、URさんとか、ミズノさんが指定管理者にもなっているので、そういった方々と対話しながら、出来ることは何かということをつくりあげていく。そんな調査を申請して、一度検討を深めるようなこととしてはどうかと思っています。

(増田会長)

それはもう大事な話で、この活動と同軸上にある話ですから。特にこの頃大事なものは、よく企業なんかでもやる産官学連携という話では足らなくて、この頃は、産官学民連携なんです。学は別に離れてもいいんですけども、民間といった時に企業という視点と、住民組織という視点があって、それを民と言う呼び方をして、官民産連携というような形の中で展開していくと。このごろの企業も、民を無視してパークマネジメントは出来ないというのが常識になって来ていますから、そういう面で言うと、積極的に100億補助の国の事業が取れるんやったら、それに越したことはないでしょうし、それがあ意味ニュータウンリニューアルの1つのきっかけになるというのも、重要な視点ですから、ぜひとも市に検討してもらったらいんじゃないでしょうかね。

(中井副会長)

公園の方でも、今の友田委員の補助金のお話を聞いてまして、公園で何かをしようとする、自分たが出来ることという、木を伐採するとか掃除するとか、そんなことしかできない。そこにハードもので何かしたいなと思った時、どうしても上位計画の位置付けがないと動けない。先ほどのネットワークにしても、絵を描くにしても金が要るし、案内板も金があるので、そういうものについても上位の位置付けで市が認めたものがあれば、そこに対して市がいくらかなりの金を出せるやろと、またこちらからも要求出来るやろということがあって、上の位置付けをまずつくっていただければいいなと考えてまして、あとは自分たちでも出来るプログラムを作って、自分たちでやっていく。もし、今のおっしゃっている調査の中で、いわゆるNPOなりSPCなりが出来て、それで箱モノが運営できるのであれば、そこに例えば体育館をリニューアルして運営してもらおうとか、今集会所がないから集会所を公園の中につくって運営していただく。そうすると、トイレも併設できるし、使い勝手も良くなる。そういうことが可能になってくるので、そのとっかかりとして良い考えかなと思っています賛同しているんですけども。

(友田委員)

南海さんも、鉄道で我々の乗降客を増やしていかないといけないし、やはり高齢者に対しても利便性の高い地域にもしていかなければならないし、子育て支援とか、そういった機能とか、スポーツとか健康とか、そういったものをこれからの公園みたいなところに機能を入れていこうと思ったときに、南海さん割とそういったところも取り組んでいるんで、是非とも一緒に対話しながら、そういったことの可能性みたいなものを検討させていただければありがたいなと思っています。

(池田委員)

まさに私の経営企画部という部署なんですけれども、今会社の中で言われておりますのは、沿線を、沿線の皆様と共に盛り上げなさいというミッションを受けておりました。それを明確に、先日2月28日に10年ビジョンを発表したところもあるんですけれども、そこでもやはり沿線価値をあげていかなければならないといった話になってまして、そこで改めて選任の部署を去年の6月につくりまして、今この辺りを少しづつやっているところです。

この会議に私2回目参加させていただきまして、南海として何が出来るのかとなった時、なかなかお金出してというのは、正直厳しいところはあるんですけれども、例えば場を提供するとか、勝手にこんなことを言ったら怒られるかもしれませんが、駅の告知の場所を貸してくれへんかなとか、そういったところというのは、我々も一緒になってやらせてもらえるところじゃないかなと思っておまして、反対に駅の活用方法なんかを、皆様と、もちろん富田林市さん、行政さんも一緒にですけれども、これから考えていけたらいいのじゃないかなと思っております。

(増田会長)

広報力というのは、鉄道会社の持っている広報媒体とか広報力というのは非常に大きいですから、それは是非とも協力いただければと思いますけれどね。

(池田委員)

勝手に言ったら怒られますが。

(増田会長)

ちなみに、金剛の駅は、駅自慢はポスター何やったんですか？

(池田委員)

何でしたか、100駅ですね。

(増田会長)

府大のある白鷺駅は、幸いなことに私の所属している植物工場を自慢のポスターにしてもらったんですけど。そんなんも含めてですけど、今のは。ありがとうございます。

そしたら、そんなことでよろしいでしょうか。もう少しですけれども、やはり少し小さな成功事

例を重ねていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

終わりましたか、そろそろ。今日予定おりました内容は、だいたい議論できたかと思っておりますので、どうもありがとうございました。事務局にお返ししたいと思います。

3. その他

(事務局：坂口)

ありがとうございました。事務局の方から、その他ということで、今後のことについて報告させていただきたいと思っております。

この協議会なんですけれども、2年前指針策定協議会として発足しまして、その後推進協議会に名前を変えて、約2年を迎えまして、6月1日で任期満了となります。今後、協議会がどうなっていくかという議論もあったんですが、当面、アドバイザー的な立場で、もう少しこのまま設置していただければなと思っております、組織として継続させていただきたいと思っております。

これまで、指針をつくるための組織としての人選、その後指針の推進のためのということで会議等してきたんですけれども、皆さんいかがでしょうか、このままの体制で改めてお引き受けいただけるか、若しくはこのようなメンバーを入れたらいいのではないかとか、若しくは私の役割はここで終わりなのではないかとか、そんなこともあると思うんですけれども、ちょっとご意見だけいただければと思っているんですけれども。

(増田会長)

いかがでしょう、当面、少し継続していただきたいというご依頼ですけれども、いかがでしょう。

(友田委員)

このメンバーで当面意見交換していければ、主要な方々割と入っておられるので、地域で活動されている方も入っておられるので、いい場所だと思いますけれども。

(増田会長)

もちろん、活動、今まちづくり会議なんかやってて、こういうメンバーに入っというてもらった方が色んな意見交換できるんじゃないですか、ということがあればメンバーの増強はいいかなと思いますけど。皆さん方からこんなメンバーに入っというてもらったらというのがあれば。

よろしいですかそれで。

(事務局：仲野)

先ほどのご意見の中で、推進協議会は、まちづくり会議がそれを変っていくようなイメージがありました、当然さっきの話ではないんですけれども、まちづくり会議がもっといろいろな活動をしていく中で、当然今入っいただいている方以外の方ももっと浮き出てくると思うんです。

当然、成り変わっていくということを前提に考えていくのであれば、そういう所を増強していきたいなというふうに思っておりますので、そこはできればフレックスに入れ替えと言えおかし

ですが、入れていくようなイメージで思っておいていただければ、事務局側としてもありがたいなという感じで。

(事務局：坂口)

それでは、委員の中でも、事業者様、団体様から出ていただいている委員さんにつきましては、引き続きお願いするということで、改めて所属に対して推薦依頼という形で、5月になりましたら事務の方進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

それから、市民委員さんにつきましては、継続して願うということと、新たに入っていただく人も必要かと思われますので、またまちづくり会議の中でご意見をいただきながら人選を進めていきたいと思っております。この協議会とまちづくり会議のパイプ役となれるような人選を進めていければと思っておりますので、よろしくお願いします。

4. 閉会

以上